

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第4回 設立メンバーが思う活動の意義とは

われわれが楽しく活動すれば 後継者や第三者に魅力伝わる

地域交流牧場全国連絡会北海道ブロック会員(2代目交牧連会長) 北海道帯広市・酪農家 廣瀬 文彦

「そろそろですよ」と世間様に肩をたたかれ、長男夫婦に経営移譲したのが2017年。家内に「あなたには酪農の価値を伝えるという大事な仕事があるでしょう」と励まされながら、現在は地元小中学校の教頭先生とキャリア教育の手法を開発中です。カーボンニュートラルや水源涵養(かんよう)の他、個人年金となるように山林経営にも力を入れ、過去20年で約90haまで拡大させました。私は1999年に地域交流牧場全国連絡会(交牧連)を設立した初期のメンバーで、2002～08年度には会長を務めました。今回は私の経験から、交牧連や酪農教育ファームが誕生した背景や活動の意義をお伝えします。

酪農とは何か—自ら消費者に伝えなくては

1988年、日本政府は関税で守られていた国内農産物のうち、牛肉とオレンジの自由化を初めて受け入れました。工業製品輸出のために農産物が犠牲になった形で、このニュースに接した時、「いよいよ日本の農業も国際競争にさらされる」と感じました。

消費者には「少しでも安い物を」という感覚があり、量販店は“消費者ニーズ”と言いながら自らの購買能力を盾に少しでも安く買ったくような時代でした。牧草の作付けから牛乳が陳列棚に並ぶまでの労力や時間、コストなどは消費者の想像の外にありました。小学6年生の児童から「牛にコーヒーを飲ませるとコーヒー牛乳が出るの？」と質問されたのは忘れられ



小学生に乳牛の体の仕組みや搾乳の仕方を教える廣瀬さん

ません。私が結婚した78年の出来事でした。

PTAの保護者に「乳牛は年頃になってオッパイが大きくなったら牛乳が出るんでしょ？」と言われたこともあり、「いやいやそんな事はない！赤ちゃんを産んで初めて出るんだよ」と答えると「1回産むとお乳は10年くらい出るの？」「毎年産むの？牛も大変ね！」と全く話がかみ合いません。牧草畑にゴミを捨てられることもあるなど、酪農を取り巻く現実にあせんとしたものでした。

しかしよく考えてみると、自分自身も他の産業については全く知らないことに気付いたのです。そこから生産者が自ら農業について伝えなくてはと強く意識し、91年に見学室付きのミルクパラーを建て、牧場見学の受け入れを始めました。うわさは瞬く間に広がり、5年後には年間2,000人が見学に来るまでになりました。牧場にながら思いを伝えられることが本当にうれしかったです。

「牧場がそこにある意義」を模索し始める

当時はいわゆるバブル経済のさなかで、国内は好景気に沸いていました。そんな騒乱のしわ寄せが農



広い世代に酪農教育ファーム活動を行っている



交牧連設立総会に向けた資料



酪農教育ファームの機関誌「感動通信」の創刊号

産物に向けられ始め、牛肉とオレンジの自由化を皮切りに、国内でも農産物の自由化、農業のコスト削減が声高に叫ばれるようになってきました。

乳価も引き下げられ、酪農家の廃業に歯止めがからなくなりました。そこで中央酪農会議(中酪)が中心となって、酪農の「生産的な価値」の他に「非生産的な価値」、つまり牧場がそこにあるだけで意義があるという価値付けができないかを模索し始めました。牧場をオープンにして消費者に足を運んでもらい、酪農の実態を生産者自らに伝えてもらう活動をしようと調査に着手したのです。やがて中酪はフランスで約1,400戸が加盟する教育ファーム活動組織と出会い、その先例にならって98年7月に「酪農教育ファーム推進委員会」を設立しました。

小さな点が結び付き、ビックバンを起こす

その年、中酪の仕事を引き受け、牧場の持つ非生産的な価値を高め広めることに奔走していた伍代正樹さんから電話が来ました。当時私が個人的に行っていた「消費者に伝える」活動を全国的なものにしたいので、手伝ってほしいとのことでした。ほどなく伍代さんが訪ねて来ました。活動について熱く語る彼と意気投合し、サポートを約束しました。

その後、活動を推進する組織(推進委員会)はできたものの、考えに賛同して積極的に活動する酪農家の組織が必要と考え、志を同じくする130戸の酪農家仲間の賛同を得て、99年7月、地域交流牧場全国連絡会が設立されました。会の名称は、それぞれの「地域」で消費者と直接「交流」する「牧場」の「全国」組織ということで、満場一致で決まりました。

設立総会当日。外も暑かったけれど、会場内も参加者の熱気に包まれていました。それは当然です。

これまでそれぞれの牧場の活動は小さな点であり、家族や牛たちに少なからず迷惑をかけ、周りの酪農家からも嘲笑の的となるなど、孤立していました。しかし、設立パーティーでは同じ志を持つ相手を見つけ、語り、痛飲することができたのです！語るほどに、飲

むほどに痛快でした。熱いマグマを抱えた点と点が遭遇したのですから、ビックバンを起こすには最高の条件でした。

農業への理解促進が 食料自給率向上にもつながる

交牧連が誕生して22年が経過しました。われわれの活動の根幹となる、「酪農を通して『食やしごと、いのちの学び』を支援する酪農教育ファーム活動」は2005年に国が定めた「食育基本法」につながり、さらには「6次化推進」にも先鞭(せんべん)を付けてきました。

交牧連は「われわれ酪農家同士がさまざまな交流をする中で、都市生活者に酪農の魅力を知ってもらおう」ことを目的とし、活動要領にもその趣旨を明記しています。この活動を推進するため、全国の酪農家からの拠出金の一部を助成してもらい、中酪や指定団体が事務局を担うという人的支援を受けています。こうした支援があつて初めてわれわれの活動が成り立つのです。厳しい縛りがなく自由なだけに、この目的を忘れずに活動しなくてはなりません。

われわれが楽しくウキウキ活動することで、後継者はもとより第三者にも農業が魅力あるものに映る

ことでしょう。われわれの活動は、離農を減らして新規就農を増やし、食料自給率の下落に歯止めをかけ、ひいては日本人の食料主権を守ることもつながっていくのです。



NHK連続テレビ小説「わたしの酪農監修も務めた廣瀬文彦さん」

牧場概要

牧場名：広瀬牧場ウエモンズハート
代表者名：廣瀬 文彦(ひろせ ふみひこ、70)
所在地：北海道帯広市西23条南6-13
総飼養数：約140頭(うち搾乳牛約90)
年間生産乳量：約760t
飼養形態：フリーストール
飼料畑面積：64ha
牧場スタッフ：長男夫婦、従業員2人(計4人)
交牧連加入年：1999年
主な活動：酪農教育ファーム受け入れ(約60件/年)、出前授業(約5回/年)、講演(約6回/年)

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール：koubokuren@churaku.jp
ホームページ：https://www.dairy-farm.jp/
フェイスブック：https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】